

## 令和2年産さくらんぼ作柄調査結果

### 1 予想作柄

○予想収穫量は13,200トンで、作柄<sup>※1</sup>は「やや少ない」。

- ・前年の11,900tに比べ1,300t多い111%
- ・平年の14,050tに比べ850t少ない94%

○開花期の前半に低温・降雨があったため、園地や樹によって着果にばらつきがみられているものの、各産地とも一定の着果量は確保されており、果実肥大も良好で、高品質なさくらんぼが期待される。

【前年収穫量】11,900t 【平年収穫量】14,050t(過去10年間のうち最大と最小を除いた8カ年の平均値)

※1 作柄は、平年収穫量との比較で次の5段階に区分する。

「多い」:115%以上、「やや多い」:105%以上 115%未満、「平年並」:95%以上 105%未満、「やや少ない」:85%以上 95%未満、「少ない」:85%未満

### 2 作柄調査の概要

- (1) 調査日：令和2年5月27日(水)
- (2) 調査園地数：48園地
- (3) 調査結果
  - ・花束状短果枝当たりの着果数<sup>※2</sup>：1.8果(前年:1.7果、平年:1.9果)
  - ・病虫害発生状況：作柄に影響する病虫害の発生はなし

### 3 収穫盛期の予想

「佐藤錦」：6月23日～27日頃(前年及び平年並)

「紅秀峰」：6月30日～7月4日頃(前年及び平年並)

### 4 今後の対応等

- 着果量の多い園地での摘果作業の早期実施、適切な着色管理や適期収穫など、高品質生産・出荷に向けて、指導を徹底する。
- より精度の高い作柄情報を発信するため、今年度から新たに、6月10日頃に補完調査を実施し、果実の肥大や裂果の状況、最新の収穫出荷時期の見通し等を消費地市場へ情報提供する。

※2 「花束状短果枝(かそくじょうたんかし)当たりの着果数」について



「花束状短果枝」＝花が咲いて実がなる極短い枝のこと。花の時期にはこの短い枝が花の束に見えるため「花束状短果枝」と呼びます。この図では3つの花束状短果枝に合計6個の実がなっているので平均着果数は2果となります。

以上